

## 様式

技術名称	バルーングラウト工法	技術の分類	工法	NETIS登録の有無 (有場合はNETIS番号)	無 (登録手続中)
会社名等	東亜建設工業株式会社	担当者	名古屋支店 小出正人	連絡先	052-957-6916
技術の概要	当工法は、ボーリングマシンにて地盤を削孔し、恒久型薬液を地盤に低圧注入することで地盤強度を高める液状化対策工法である。また、直線削孔、斜め削孔及び曲がり削孔を組み合わせることで既設構造物直下地盤の液状化対策が可能であるとともに、従来の薬液注入工法と比較して薬液の逸走防止性能を向上させたことで改良品質が向上している。		添付資料	パンフの有無	有
				その他の資料	協会資料、論文
技術の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存施設の直下地盤の液状化対策に適している。</li> <li>既存施設を供用しながらの施工が可能である。</li> <li>薬液の注入圧力が低く(1~2kN/m<sup>2</sup>程度)、周辺への影響がほとんどない。</li> <li>従来の注入工法(例えば浸透固化処理工法他)と比較して削孔軌道に沿った薬液逸走性能が高い。</li> <li>二重管ダブルパッカー工法と比較して、コストが45%程度削減できる。</li> <li>二重管ダブルパッカー工法と比較して、工程が70%程度短縮できる。</li> <li>作業ヤードは、削孔時:28m<sup>2</sup>程度、注入時:120m<sup>2</sup>程度とコンパクトである。</li> <li>改良深度、気温等、自然条件の制約は特にならない。</li> <li>改良対象地盤は、砂地盤~礫質地盤で、粘性土地盤には適用できない。</li> </ul>	その他	<p>活用にあたっては以下の点に留意が必要である</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工法使用料は必要(特許申請番号:特開2009-2154及び特開2009-57826)</li> <li>砂地盤の細粒分含有率が30%を超える場合、改良仕様について詳細検討が必要である。</li> <li>地下水の流れが速い地盤の場合、薬液ゲル化時間の調整が必要である。</li> <li>薬液注入前に現地注水試験を実施し、浸透注入が可能な適正注入速度を決定する必要がある。</li> </ul>		

※複数の技術について発表をご希望の場合は技術ごとに記載願います。